

2019年1月

美容師の労働環境と働き方の変化に関する研究

経営学部 経営学科 幡鎌ゼミ
B5R11104 武田 遼太郎

【卒業論文概要】

美容師という職業は、3年以内で離職する人が80%と高い数値が出ている。

美容師の人口は年々増加しており、店舗自体もコンビニエンスストアや信号機の数よりも多い。それでもこの高い離職率になってしまうのには何かしらの離職原因があると推測できる。

離職原因について、インタビュー・集計・書籍・雑誌などを用い調査をしたところ、大きく分けて「賃金」「人間関係」「労働環境」などの面が問題視されている部分だということがわかる。「薬剤が肌に合わず、手荒れやアレルギーを発症する」などといった美容師ならではの理由もあった。

本論文では、現状の美容師の実態、高い離職率を出す原因、成功者事例を明らかにし、離職率を下げるための改善案や世間のイメージの改変を目的にした内容である。

まず、原因の一つの賃金は、スタイリストが18~20万+歩合でアシスタントが13~17万とサラリーマンなどに比べてかなり低い。人間関係では美容師のほとんどが縦社会になっており、年齢は勿論だが、上司には「絶対」というような環境に耐えれずやめていく人もいるのだという。実力主義の業界だとなおさら目立ってしまう原因なのではないだろうか。労働環境に一番重要な労働時間に関しては平均10時間以上で休暇も週に1回あれば十分な方だというサロンが多い。福利厚生もほとんどなく厳しい労働環境で仕事が行われている。そういった労働環境の中でも成功者はいる。成功者には、指名数が年間10,000人もらっている人もいれば、年間個人売上1200万円を達成する人もいて、現代のSNSをうまく活用して集客や認知度の向上を狙い、Youtubeを通し情報を発信しながら美容師をしている人もおり、その方の予約は取ることが困難な状況にもなっている。そういう人たちがいることで美容師の離職が高いながらも増えているのではないかと推測ができる。これらを基に多面的な角度から考察、推測、検証、結果などをまとめていく。さらに、今後の美容業界（美容師）の離職率を下げるために、環境作りを整えるための課題や対策を提示した。